

## 目標

果樹農業の担い手を育成・確保するため、高度な技術の習得や樹園地の確保、未収益期間の克服など果樹特有の課題の解決に産地が取り組む**果樹型トレーニングファーム**の取組など、幅広い農業者や法人が果樹農業に参入する取組を推進する。離農する経営の園地の受け皿となる経営体や付加価値向上を目指す経営体について、果樹農業で生計を立てる担い手として、規模の大小や個人・法人などの経営形態にかかわらず、育成・確保する。また、**サービス事業体等を活用した労働力の確保**、作業の省力化などによる季節的な作業ピークへの対応や労働時間の平準化を図る。

## 基本方針

### ① 新規就農者の育成・確保

- 新規就農者を増やすため、高度な技術の習得や園地の確保、未収益期間の克服など果樹特有のハードルに対応して、**技術研修と園地継承を併せて行う果樹型トレーニングファームの取組を推進**する。

### ② 果樹農業の魅力の向上・発信

- 果樹に関心をもつ者が**果樹農業に魅力を感じ、新規就農につながるよう、省力樹形など、労働生産性の高い果樹農業の姿を発信**する。
- 労働関係法制における農業の特例の考え方について、果樹農業現場の実態把握を進めた上で、必要な見直しを検討する。
- 果樹農業が若者や女性にも選ばれる産業となり、農業法人の従業員としての定着や雇用の増大が図られるよう、**就労条件、農作業安全等の雇用の確保に資する法人の環境整備、社会保険労務士の活用等**を推進する。

### ③ 多様な農業者による園地の保全管理

- 担い手への園地の集積・集約化を進めることを基本として推進しつつ、多様な農業者によるものも含めて、地域において自立的・持続的に果樹生産が行われることを通じ、園地の保全管理を行う。
- また、担い手への円滑な経営継承に取り組むとともに、所有者不明農地の解消等を推進する。

## 果樹型トレーニングファーム

広果連広島県果樹農業振興対策センター  
：ぶどう、レモン等



ぶどう園における研修



レモン園の管理

- 広果連が研修制度を立ち上げ、**地元JAが園地斡旋、市町が制度資金等の確保を担当**。
- 広果連が**荒廃園地を借り受け**、リスクの高い期間を広果連が経営し、**成木後に新規就農者に継承**。
- 平成24年以降、荒廃園地を研修園地として整備し、新規就農者を25名輩出、1名に継承。

## 基本方針

### ④ 労働力不足への対応

- サービス事業体の活用や関連産業との協働、着色作業の省略等の作業の省力化等による季節的な作業ピークへの対応を推進する。
- 季節性に対応する短期労働力の確保のための環境整備の推進等を強化する。
- 外国人材の確保のため、育成就労制度の創設も踏まえた受入環境整備とキャリア形成を促進し、果樹農業への外国人材の受入れのあり方について検討を進める。
- 農福連携の取組を通じ、障害者等が働きやすい環境の整備を図ることにより、障害者等が生きがいを持って果樹農業に関する活動を行うことを促進する。

### ⑤ 大規模経営体の参入の推進

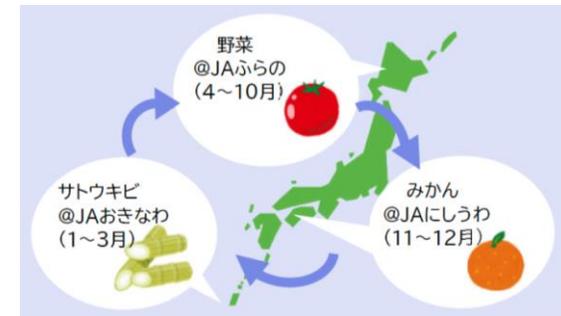
- 果樹を含む農業法人について、経営管理能力の向上のため、農業法人の評価の目安となる経営指標を示した上で、今後の果樹農業を担い、経営改善に取り組む経営層の育成・確保を推進する仕組みを検討する。
- 令和7年4月から始動する農業経営発展計画制度や、農林漁業法人等投資育成制度等の活用により、食品事業者やアグリビジネス投資育成株式会社、LPS（投資事業有限責任組合）から果樹の農業法人への投資の促進を図る。
- 民間金融機関が取り扱う制度資金について、更なる資金ニーズの拡大に対応可能な貸付条件を有し、果樹を含む農業法人へより速やかな融資実行が可能となるよう、制度資金の在り方を検討する。

## 他産地・他品目との労働力リレー

（JAにしようわ：みかん等）

農閑期の異なる複数産地で連携し、農繁期に必要なアルバイトを確保。

- 3JA共同で人材募集チラシの作成・求人サイトへの求人情報掲載等を行いアルバイトを募集。
- 従事中のアルバイト向けに、他地域の担当者が現地へ赴き業務説明会を開くなど、移動先の産地でスムーズに農作業に従事できるよう工夫。



## 栽培方法の見直し

着色作業を省略し、日焼け防止を優先する栽培方法へ見直し



## 目標

若い人たちに魅力のある産業とするため、作業の合理化、販売単価の向上により労働対価を高め、生産者の所得を向上させるとともに、農業という枠組だけでは労働力が限られる中、地域経済を守る観点から、**輸出・加工など関連産業との連携・波及**、雇用の創出、地域の活性化など、地域の基幹産業としての果樹農業の付加価値を高めていく取組を推進する。

## 基本方針

### ① 輸出や加工等の関連産業との連携

- 輸出等の販路に向けて**大規模効率生産・流通による生産・販売を目指す事業体**や、**徹底した生産合理化により加工専用果実を生産する法人経営体、加工原材料を必要とする食品企業等と産地の連携**や、こうした事業者の生産への参入を推進する。
- 食品事業者と果樹農業者が連携し、原材料の安定調達やこれを契機とした新しいビジネスの展開を促進するとともに、地域の農林漁業者、食品事業者をはじめ、観光やフードテック、IT・ロボット等を含めた幅広い関係者が連携・協調するための場の構築を推進する。また、こうした食品事業者等による計画的な取組を総合的に支援する制度を検討する。

### ② 定年者等の地域住民、交流人口の参加

- 果樹は高い付加価値を生み出すという特性を踏まえ、農業生産条件が不利な山間部や島嶼部において、**定年者、高齢農家、交流人口や地域商社など多様な人材が参加し、商品力のある製品の開発や軽労作業が可能な加工仕向けの品目の導入等**により、収益と高い営農意欲を確保する取組を推進する。

## 加工原材料を必要とする食品企業からの参入

加工原材料を必要とする食品企業の参入により、原材料の安定調達や地域内外の人材活用など、地域経済の活性化をもたらす取組

【生産・流通・販売の特徴】



生産	流通	販売
作業性を重視した園地作りによる省力化	ほぼ全量を自社工場で加工	自社が持つ従来の販売ルートでの販売

### 付加価値

計画的な生産による収益の最大化、安定した原料調達

コストから逆算して生産量を決定

地域雇用の創出、本社からの人材融通

地域の高齢農家が持つ技術の継承を促進

遊休地の活用、搾汁設備の設置

遊休地の活用により新たな経済効果を創出

### 労働量

作業性を重視した園地作りや栽培方法による労働負担の軽減

適期を判別しやすい方法による収穫作業の高速化

- 遊休地が活用され大規模経営が出現することにより、地域に就農者、雇用を創出、設備投資を促進
- 販売までの出口を見据えた効率的な生産により収益を最大化
- せん定など、技術を有する地域の高齢農家を雇用することで、本社から派遣された若手社員への技術継承を促進

# 地域の基幹産業としての付加価値向上（輸出や加工等の関連産業との連携）

## 合理化を徹底した大規模加工専用園地

徹底した合理化、超省力化や適正取引価格により加工専用果実の生産を実現するとともに、加工業者等から作業員を受け入れる取組



【生産・流通・販売の特徴】

生産	流通	販売
加工専用、徹底した機械化による超省力化、面積拡大	加工業者へ契約出荷	品質に合わせた適正価格での販売

### 付加価値

超省力化、契約栽培による適正価格での取引



契約企業や福祉施設から作業員受入、人材育成



需要に応えた加工品の開発

相場価格の3倍で取引

契約企業から3人/日  
福祉施設から4人/日

需要に応じた品質の果実を栽培

### 労働量

徹底した機械化による超省力生産・流通

週当たり3.5haの収穫が可能

- 機械作業を前提とした園地作りによる大規模化、徹底した機械化による超省力化により、従業員一人当たりの生産増加
- 地元加工業者へ契約出荷を行い、品質に合わせた適正価格で取引することで加工原料用果実に特化した生産を実現
- 契約企業や福祉施設等からの作業員を受入

## 中山間地域における地場産業の創出（山椒）

鳥獣被害の心配が少なく作業も軽労な山椒等の栽培により、山間部において他樹種栽培との併用や定年者など多様な人材を活用する取組



【生産・流通・販売の特徴】

生産	生産・流通	販売
軽労で作業負担の少ない地域特産品の生産	定年を迎えた地域住民など幅広い参画	直売や市場出荷のほか、大手食品会社への販売

### 付加価値

世界的な需要、比較的高単価な特産品の販売



定年者や福祉関係者との連携、農閑期の活用



荒廃した山間地の活用

市場単価（2,600円/kg）、高収益（104万円/10a）

3年間で延べ200名の参入

鳥獣害の心配が少ない品目のため山間地を活用

### 労働量

軽労作業かつ短期間作業のため少ない労働負担

収穫期間7日～10日程度（7月、8月）

- 鳥獣被害の心配が少なく需要の高い「山椒」を山間部の特産品と位置付け、高単価で取引（海外展開も視野）
- 果実重量が小さく、また、収穫期以外の管理負担が少ないため、他樹種栽培や他産業との複合経営や、多様な人材の活用が可能
- 地域全体に付加価値が裨益

# 近代的な果樹園経営の基本的指標

省力樹形の導入等による農業所得や労働生産性の向上に向けた経営の改善・発展や果樹農業への参入に資する経営指標を提示。

## ぶどう慣行栽培モデル

- 房作りをはじめとした繊細な手作業が中心
- シャインマスカットをはじめとした高単価な生食用果実を生産
- 房作りや収穫期の労働ピークに臨時雇用労働力を活用
- 主な機械設備はスピードスプレーヤー、乗用型草刈機
- 共選出荷

### 【経営概要】

2人、臨時雇用1人

経営面積(ha)	0.8
10a 当たり収量(t)	1.6
単価(円/kg)	1,180
総労働時間(時間)	2,456
1経営体当たり農業所得(万円)	533
1時間当たり農業所得(円)	2,169

## ぶどう多用途栽培モデル

### 【課題】

- 高度な技術を必要とし、労働集約的な作業が必要  
房作り(摘房、摘粒等)に高度な技術が求められ、労働力の確保が困難
- 労働時間の削減が必要  
収穫等の労働ピークが規模拡大のネック

### 【対応方策】

- 用途に応じた栽培体系の見直し  
ギフト用、日常消費用、加工用の用途ごとに栽培体系を見直し、価格に見合った作業の効率化を実現  
例えば、日常消費用や加工用については、摘房数の見直しや摘粒作業の省略により、房作りにかかる10a当たり労働時間を慣行比7割削減
- 機械化が可能な園地への基盤整備、機械導入  
10a当たり労働時間を慣行比5割削減

### 【経営概要】

- 2人、臨時雇用4人
- ・ ギフト用、日常消費用、加工用の用途に応じた栽培
  - ・ 収穫出荷作業の外注
  - ・ 加工業者との契約販売

経営面積(ha)	5.0
10a 当たり収量(t)	1.6~4.0
単価(円/kg)	100~1,600
総労働時間(時間)	7,488
1経営体当たり農業所得(万円)	1,703
1時間当たり農業所得(円)	2,274